

ふくおか A L 通信

～県立学校の教室から～

第 37 号
(R 2.11.24)

福岡県立学校
新たな学び
プロジェクト

福岡県立若松高等学校

志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい生徒の育成

平成24年度に創立100周年を迎えた、伝統のある普通科高等学校です。「自主、礼儀、責任」の校訓の下、「確かな学力を身につけ、自分の心で感じ、自分の頭で考え、自分の言葉で語ることのできる『生きる力』を備えた生徒」の育成を目指し、教科指導、進路指導、生徒指導等を通じ、高い規範意識、意欲をもって挑戦する心、若高生としての自信と誇りを育む教育活動を展開しています。教科指導力、生徒指導力を高めるため、教員相互が学び合う雰囲気が校内で醸成されています。

1 授業改善の推進体制と環境整備

(1) ICT環境整備

平成24年度から27年度に県のICT活用推進校の指定を受け、パソコンやプロジェクタなどが配備され、充実が図られました。これを機に学校全体でICT機器を活用した授業実践が積極的になされるようになりました。

(2) 職員間の強い信頼関係を生む土壌

学校全体で「率先垂範」の姿勢を教員が示すことが意識されています。若手の教員が学校内で増えている中、先輩教員が積極的に生徒への指導に当たっており、模範を示しています。全教員が教科指導においても生徒指導においても相互に協力して指導に当たる体制が構築されています。

2 知識構成型ジグソー法の導入と校内での研修内容

在籍する生徒の進路は多様なため、生徒の希望する進路に対応した資質・能力を高める必要があります。その一方で、生徒の積極的な授業参加が図られていない、学習への集中力が持続しきれていない、基礎学力の定着が不十分であるといった課題があり、授業改善の必要性が求められていました。その中で、生徒全員が学習活動に積極的に参加できることに加え、学習の手順が分かりやすいため、教員が導入しやすく生徒も見通しをもって学習に取り組みやすいことから、知識構成型ジグソー法を学校の教育活動に取り入れることとしました。

知識構成型ジグソー法の導入が決定した後、職員研修を行い、どのように知識構成型ジグソー法の学習を進めていくのか教員全員で実際に体験しました。さらにこの職員研修後、教員全員が知識構成型ジグソー法を使用した授業を構想し、指導案を作成しました。これらの取組によって教員が授業改善を自分事として捉え、実践に向かう意識を向上させることができました。それ以外にも、知識構成型ジグソー法の推進を図っている東京大学 CoREF から講師を招き公開授業を行ったり、校内で各教科の代表者による公開授業を行ったりすることで、全教員が知識構成型ジグソー法に対する理解を深めることができました。

3 授業の実際（3学年 物理「物質と電気抵抗」）

静電気が発生する仕組みと電荷が持つ性質を学び、箔検電器（資料）に見られる現象をミ

クレベルで解析することを授業のねらいとしました。授業担当者による演示実験が行われた後、「箔検電器に帯電帯を近づけると、なぜ箔が開くのか、その理由を考えよう」という本時の課題が生徒に提示されました。その課題を解決するために A～C の3つのエキスパート班が設定され、それぞれのエキスパート班に「物体が帯電するしくみ」「静電誘導について」「静電気力について」の資料が配布されました。最初は個人でそれぞれに配布された資料を読み取ってその内容をまとめ、その後、まとめた内容について同じ資料を読み取った生徒同士の班で意見交換を行いました。個人での活動の際は資料の読取りが適切に行われているか、授業担当者が机間指導を行い、個別にアドバイスを行っていきます。新型コロナウイルス感染対策も万全で、グループで対話的な活動を行う際は全員の机の向きを同じ方向に向け、班の人数も少人数（3人）とし、生徒相互の距離も配慮するようにしていました（写真）。「意見交換をする時には、自分の言葉で説明するようにしよう。」と授業担当者からの声掛けに後押しされるように、生徒は自分の調べた内容を相互に確認し合っていました。



資料 箔検電器（イラスト）



写真 座席配置を工夫したジグソー活動

エキスパート班での活動終了後、ジグソー班が設定され、A～C それぞれのエキスパート班で身に付けた内容について各自が説明を行いました。「静電気現象が起こるのは摩擦などで電子の移動が起こる」「静電誘導という現象があって・・・」など3人がそれぞれ説明した内容を基に課題に対する自分の意見をまとめていきます。最後に授業担当者が電子黒板でアニメーション教材を用いて、電子の移動と電荷の分布について説明し、本時の課題を考える上で必要な考え方について理解を深めました。

4 生徒及び教員の変容

知識構成型ジグソー法を導入したことで、生徒が意欲的に授業へ参加する姿勢が高まりました。ジグソー法ではエキスパート活動を行った後、ジグソー活動で自分が学んだ内容を他の生徒に説明したり、他の生徒から教えてもらった内容を自分でまとめたりすることが必要です。それに伴い、課題に対して自分の言葉で説明する力が向上しました。また、教員がこれまでの自分の授業を見つめ直すようになりました。授業改善への意識が向上し、知識構成型ジグソー法以外の様々な方法で授業を実践する教員が増えました。また、講義型のみの時と違い、生徒の活動時間が増えたことで、授業中に教員が生徒の学習状況を把握したり、苦手意識を持つ生徒に個別に指導したりするなど、一人一人の生徒に適切な指導を行うことができるようになりました。

現在は学校にタブレット端末が配備され、タブレット端末を活用したジグソー法を行うなど実践の幅がさらに広がっています。

5 今後の課題及び方向性

ICTと知識構成型ジグソー法を融合させた実践を各教科や総合的な探究の時間で増やしていくことと、授業改善は学校全体で進んでいますが、適切な学習評価をどのように実現していくかが課題となっています。